

売薬の意匠あれこれ

〈その19〉
キャラクター フィギュア (アスリート仕様)

一般社団法人 北多摩薬剤師会会長 平井 有 (ひらい・たもつ)

今年は7月24日～8月9日にオリンピック(第32回オリンピック競技大会)、8月25日～9月6日にパラリンピック(東京2020パラリンピック競技大会)が東京で開催の予定でしたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け延期になりました。日本での開催は冬季も含めると、1964年(昭和39)東京(夏季)、1972年(昭和47)札幌(冬季)、1998年(平成10)長野(冬季)に続く4回目となります。

1964年の東京オリンピックの開会式が行われた10月10日は、1966年(昭和41)に国民の祝日「体育の日」となりま

した。その後、ハッピーマンデー制度によって10月の第2月曜日になり、今年から「スポーツの日」に改められましたが、オリンピックイヤーの特例として開会式が行われる予定だった7月24日としています。

「スポーツ選手」という呼称もプロ・アマも含め「アスリート」に替わり、スポーツは見るものから、参加するもの、自ら行うものになりました。薬の業界においても「アスリート」をモチーフとした売薬の景品(販促品)やフィギュアが多数作られました。今回はそのようなアイテムをご紹介します。



ピョンちゃん(エスエス製薬)

同社は「エスエス」の由来を「良い薬を提供し、そのことが国民の健康維持・増進に寄与するという(social service)のイニシャルをとったもの」とし、後に「科学を探究し社会に貢献する(Science & Society)という意味」を加えています。「ピョンちゃん」は、因幡の白うさぎの神話にちなんで1952年(昭和27)に誕生しましたが、時代とともに変化を遂げているキャラクターです。



サトちゃん・サトコちゃん(佐藤製薬)

1915年(大正4)創業の佐藤製薬は、イチローをコンケルのCMに、浅田真央をストナのCMに起用しており、お馴染みのキャラクター「サトちゃん」「サトコちゃん」がスポーツをするフィギュアがたくさんあります。ストラップには、イチローが活躍したメジャーリーグのチームや国内のプロ野球のチームの名前が入っています。



マキロン坊や(山之内製薬)

「マキロン坊や」は、1971年(昭和46)に山之内製薬がマーキョロクロム液(赤チン)に代わる色の付かない傷薬として発売した「マキロン」のブランドキャラクターです。2004年(平成16)に山之内製薬と藤沢薬品工業のヘルスケア部門が分割統合されてゼファーマとなり、2007年(平成19)に第一三共ヘルスケアに統合されました。



Mr.CONTAC (グラクソ・スミスクライン)

「コンタック」の日本での発売は1966年(昭和41)と古く、製品名はCONTINUOUS CTION(持続性効果)からつけられました。1996年(平成8年)に「Mr.CONTAC」が誕生。国内の発売元は、2015年(平成27)にグラクソ・スミスクラインのコンシューマーヘルスケア事業とノバルティス ファーマのOTC事業が統合され、グラクソ・スミスクライン・コンシューマーヘルスケア・ジャパンになりました。